

表紙によせて

大作 晃一

きのこを探しながら森を歩いていると突然、きのこの種類が変わることがある。コウモリタケとかウスタケが現れると、近くに大きなモミがある。

モミはそれほどたくさんはないけれど、大きなクリスマスツリーのような姿は遠くからでもよく目立つ。

モミの下に生える食用きのこは、アカモミタケやモミタケあたり。

秋の筑波山では、モミの下でアカモミタケを探す人たちがいる。

房総の山でもアカモミタケやモミタケが見つかる。大きなものだと直径25cmもの傘になるモミタケを探すのは房総の秋の醍醐味だ。クリスマスツリーをめざして、森の中を歩き回る。

ウスタケ [白茸]

モミ [樅]

葉先は二つに分かれ、先端は針状にとがる。若枝には短毛がある。ウラジロモミはブナ帯上部から亜高山帯に自生するため、千葉県ではみられない。

キハツダケ [黄初茸]



アカモミタケ [赤樅茸]

モミタケ [樅茸]

モミの球果は、緑色で、上向きにつく。尖った苞鱗(ほうりん)がつき出しており、触ると痛い。種子が熟すと、中軸を残してバラバラになる。